

# 新たな畜産獣医学の教育・情報発信拠点 「南九州畜産獣医学拠点（SKLV）」の取り組み ～「学ぶ」だけでなく、現場で実践し、次世代の畜産を支える拠点～

一般財団法人 SKLV そお

## 1 はじめに——産業動物獣医師をめぐる課題と南九州の現実

日本の畜産を支える産業動物獣医師や公務員獣医師の確保は長年の課題である。獣医師全体の数は増加傾向にある一方で、牛、豚、鶏、馬などを対象とする産業動物分野では、就業者が横ばいから微減で推移し、高年齢化も進んでいる。背景には、大学における産業動物分野の獣医療の教育環境がソフト・ハードの両面で維持困難になりつつあることや、獣医師を目指す学生の教育を行う全国17大学の大半で農場での実践的な臨床実習の機会が限られてきたことがある。具体的には、北海道など一部地域では大規模な実習環境が整備されている一方、他地域においては産業動物の実践的な臨床実習を継続的に組み込むことが難しく、大学によって実習機会の質と量にばらつきが生じている。また、小動物診療に強みを持つ大学と産業動物診療に強みを持つ大学があるなど、大学によって教育の特色がそれぞれ異なるため、学生が幅広い

分野を体験するための環境面での制約も生じている。

また、産業動物の獣医療は、小動物の診療とは根本的に異なっている。群単位の衛生管理、疾病の早期発見、農場経営との接点、これらはすべて実際の畜産現場で実践的に身に付けている状態である。

そうした中、圧倒的な畜産規模を誇る地域が鹿児島県曾於市である。

曾於市は大隅半島の北部に位置し、令和5年の市町村別農業産出額では肉用牛が全国3位、豚が全国4位、ブロイラーが全国10位という畜産の主産地である（表1）。また、畜産全体、肉用牛、豚の産出額がいずれも全国1位の宮崎県都城市とも隣接している。その一方で、人口減少や少子高齢化が進み、平成28年3月には鹿児島県立財部高等学校（以下、「財部高校」という）が廃止され、広大な跡地の活用が課題となっていた。

表1 令和5年における全国市町村別の農業産出額上位（推計）

【畜産】 (単位：千万)

全国順位	都道府県	市町村	産出額
1	宮崎県	都城市	8,447
2	北海道	別海町	6,367
3	栃木県	那須塩原市	4,093
4	鹿児島県	曾於市	3,863
5	鹿児島県	大崎町	3,640
6	鹿児島県	鹿屋市	3,504
7	鹿児島県	出水市	3,470
8	千葉県	旭市	3,395
9	熊本県	菊池市	3,393
10	群馬県	前橋市	3,026

【肉用牛】 (単位：千万)

全国順位	都道府県	市町村	産出額
1	宮崎県	都城市	2,059
2	鹿児島県	鹿屋市	1,753
3	鹿児島県	曾於市	1,295
4	鹿児島県	指宿市	1,245
5	宮崎県	小林市	1,222
6	熊本県	菊池市	1,061
7	北海道	士幌町	1,003
8	宮城県	登米市	979
9	鹿児島県	鹿児島市	866
10	宮崎県	えびの市	788

【豚】 (単位：千万)

全国順位	都道府県	市町村	産出額
1	宮崎県	都城市	3,266
2	千葉県	旭市	2,263
3	群馬県	桐生市	1,746
4	鹿児島県	曾於市	1,738
5	鹿児島県	大崎町	1,424
6	青森県	十和田市	1,262
7	熊本県	菊池市	1,250
8	茨城県	鉾田市	1,120
9	鹿児島県	鹿屋市	1,104
10	宮崎県	川南町	1,076

【ブロイラー】 (単位：千万)

全国順位	都道府県	市町村	産出額
1	宮崎県	日向市	2,538
2	宮崎県	都城市	1,957
3	鹿児島県	大崎町	1,895
4	鹿児島県	垂水市	1,637
5	鹿児島県	長島町	1,137
6	鹿児島県	出水市	1,109
7	岩手県	一関市	1,081
7	岩手県	一戸町	1,081
9	岩手県	二戸市	968
10	鹿児島県	曾於市	779

資料：農林水産省「令和5年市町村別農業産出額（推計）」に基づき一般財団法人SKLVがお作成

注1：全国順位は、全国1719の市町村の上位10位までを表す。

注2：畜産は、肉用牛、乳用牛（生乳含む）、豚、鶏（鶏卵およびブロイラー）、その他畜産物の合計。

注3：ブロイラーの順位は産出額が公表されている市町村の上位10位までを表す。

## 2 設立の経緯——廃校跡地から生まれた産業動物臨床の実践教育の拠点

財部高校跡地の活用を模索していた曾於市と、産業動物分野の実践教育の場を模索して

いた鹿児島大学。両者の課題が重なり誕生したのが、「南九州畜産獣医学拠点（South Kyushu Livestock Veterinary Center：SKLV）」である（写真1、図1）。



写真1 SKLVの施設（左：外観、右：正面入口）

図1 SKLVの所在地およびアクセス

## アクセス



▶ 自動車でのアクセス（最寄りIC）  
 東九州道 末吉財部IC から 約15分  
 宮崎自動車道 都城IC から 約10分

▶ （最寄り空港）  
 宮崎空港から 約50分  
 鹿児島空港から 約50分



資料：一般財団法人SKLVそお作成

SKLVは、財部高校跡地を活用した教育複合施設として整備され、令和6年4月1日に本格運営を開始した（表2）。設置主体は曾於市、

施設全体の管理運営は指定管理者である一般財団法人SKLVそおが担い、鹿児島大学と緊密に連携しながら、教育・研究・地域交流・情報

表2 SKLV創設から現在までのロードマップ



資料：一般財団法人SKLVそお作成

発信の機能を一体的に展開している。その他、鹿児島県経済農業協同組合連合会（JA鹿児島県経済連）をはじめとする複数の民間企業・団体がこの施設を利用してさまざまな事業を行っている。このように、約28億円の公的投資によって整備された施設は、特定の組織のためではなく、日本の畜産を担う人材育成と情報の基盤となることを目的としている。

### 3 施設の概要——「泊まり込んで学ぶ」実践フィールド

SKLVの最大の特色は、「学ぶ・実習する・食べる・泊まる」がすべて同一敷地内で完結する点にある。旧財部高校校舎をリノベーションした講義室・会議室・宿泊施設（全28室）の他、食堂、レンタルオフィスなどを備え、多様な学習環境を実現している（図2）。

施設は主に三つのエリアで構成される（図3）。

「産業動物モデル飼育エリア」は、牛・鶏の畜産獣医学実習、研究などの中心で次世代閉鎖型牛舎、研究用鶏舎が整備されている。ここで特筆すべきは、SKLV内の牛舎のすべての牛は、JA鹿児島県経済連がテナント事業として黒毛和牛の繁殖・肥育一貫飼育を行っているもの

で、教育用に特別に用意された産業動物ではなく、実際に経済的価値を持つ肉用牛を対象に、診療・衛生管理実習などの実践経験を積めることが大きな特徴である。この現実感が、学生の学びを実体の伴ったものにする。民間事業者の経営と大学の教育が同じ敷地に共存するこのモデルは、施設の持続可能性を支える根幹でもある。

「地方創生エリア」は、講義室、会議室、宿泊施設などを備えた中核施設で、ICT（情報通信技術）関連企業や地域事業者の活動拠点としても機能する。

「馬エリア」は、<sup>きゅうしゃ</sup>厩舎、屋内外馬場を備え、馬の診療実習から乗馬体験、地域イベントまで幅広い目的に対応可能である。

また、旧財部高校校舎をリノベーションした施設であることから、「教室で講義を受け、歩いて畜舎へ向かい、実習後に仲間と食事をしながら振り返り、宿舎に泊まる」という一日が、すべて施設内で完結する。希望者は、深夜の牛の分娩介助にも立ち会うことができ、都市部のキャンパスを拠点とする大学では得難い現場環境が整っていることも魅力の一つである。

図2 各種施設の概略図



資料：一般財団法人SKLVそお作成

図3 産業動物モデル飼育エリアの概要

<p><b>産業動物モデル飼育エリア</b></p>	<p><b>次世代閉鎖型牛舎</b></p> <p>★黒毛和牛<b>350頭規模を一貫飼育</b>          出産から出荷までのすべての工程での実習が可能</p> <p>温度・湿度などを気象センサーで管理          気流や細霧を自動制御          バイオセキュリティおよび臭気対策</p> <p>牛にとって快適な環境を創出          動物福祉に配慮した飼育</p> <p>L5G環境を整備、スマート畜産の実践</p> <p>「畜」を通して学びを深めよう          JA鹿児島県経済連</p>	
<p><b>産業動物モデル飼育エリア</b></p>	<p><b>研究用鶏舎</b></p> <p>★ブロイラー<b>5,000羽</b></p> <p>冬季を除く3クール          鳥インフルエンザに配慮</p> <p>天井にカメラ4.5台          鶏の育成状況をデータ化          体重推計や活動量解析</p> <p>動物福祉に配慮した          飼育</p> <p>鹿児島大学          KAGOSHIMA UNIVERSITY</p>	
	<p><b>馬エリア</b></p>	<p><b>厩舎</b></p> <p>★<b>20頭規模の厩舎</b></p> <p>福祉事業者との連携、  <b>ホースセラピー</b></p> <p>飼養種類も多様</p> <p>一般向けの引き馬や          外乗、乗馬スクール          も実施</p> <p>動物福祉に配慮した          飼育</p> <p>CANALAN CAMEL TRADING CO., LTD.</p>

資料：一般財団法人SKLVそお作成

## 4 産業動物獣医師育成の教育拠点として

SKLVの指導体制は、鹿児島大学共同獣医学部の南九州畜産獣医学教育研究センター（SKLVセンター）が担い、常駐の教員陣による実践的な獣医学教育と専門的な学び直し（リスクリング）教育を行っている。学生実習は4泊5日を基本とし、教員が実習プログラムの企画・立案から現場での実技指導まで一貫して

行っており、全国の獣医系大学から学生の実習を受け入れている（写真2）。

開設初年度の令和6年度には、全国15大学から116人の獣医学生を受け入れ、令和7年度には167人へと増加し、全国17の獣医系大学すべてから学生が訪れた。かつて廃校となった場所が、今や日本全国の獣医学生が集う実習拠点へと生まれ変わっている。



写真2 SKLV内での実習の様子

## 5 畜産・獣医学分野の情報発信拠点として —全国3000人が参加するSKLVセミナー—

SKLVでは、生産者や産業動物獣医師、畜産関連企業・団体、家畜保健衛生所などを含む地方行政職員を対象として、畜産・獣医領域に直結したテーマでセミナーを開催している。開設以来、「SKLVセミナー」は、令和6年5月以降、約2年間で計47回、対面・Webを組み合わせたハイブリッド形式により、累計で約3000人が参加するプラットフォームへと成長した。

セミナーのテーマは、豚熱・アフリカ豚熱をはじめとする感染症・防疫対策、スマート畜産・AI（人工知能）活用、和牛繁殖管理など、現場における喫緊の課題を中心に構成されており、ドイツ・台湾・タイ・韓国の専門家を招いた国際的な情報共有も行われてきた。ハイブリッド

形式の導入により、南九州を拠点としながらも、北海道から沖縄まで全国の畜産関係者に情報を届けるインフラとして機能している。

## 6 地域の交流拠点として

SKLVでは、施設を活かして地域住民や子どもたちに向けたイベントを継続的に開催し、畜産業や産業動物獣医師という職業への理解醸成にも力を入れている。また、乗馬クラブの入居により、一般来場者が馬と気軽に触れ合える場ともなっており、牛・鶏の飼養区域を除き、休日も含めて一般開放されている（写真3）。

開設から2年間の総来場者数は4万7000人を超え、曾於市だけでなく、SKLVは域内外から人が集まる新たな交流拠点へと成長している。



写真3 地域住民や子どもたちに向けたイベントなどの様子

## 7 今後の展開——南九州から、日本の畜産の未来へ

SKLVが目指すのは、「南九州の畜産拠点」という枠を超えた存在である。現役の獣医師・畜産技術者にはリスクリングの場として、農家・畜産関係者にはセミナーを通じた最新情報の取得と現場の声の発信の場として、畜産関連企業・研究機関には実証フィールドとして活用してほしい。行政機関には、ハイブリッドセミナーなど情報発信の場として積極的に活用してもらうことを期待している。こうした役割をさらに強化し、多くの方にSKLVという施設を認識していただき、活用してもらうことを通じて日本の畜産業の基盤強化に貢献していきたい。

廃止された高校跡地が、全国の獣医学生、畜産関係者、研究者、行政、企業、生産者などが集う拠点となったことは、「人口減少が進む地方でも、設計と連携次第で新たな人の流れと

可能性を生み出せる」ことを示している。

SKLVが南九州の畜産から、日本の畜産基盤を支え、世界へと発信する——SKLVの取り組みは、その確かな第一歩を踏み出している。

一般財団法人SKLVそお  
〒899-4101  
鹿児島県曾於市財部町南俣1343番地  
TEL：0986-36-6087  
Mail：info@sklv-soo.jp  
ウェブサイト：https://sklv-soo.jp

★セミナーなど最新の情報はこちらから↓↓

公式Instagram



@SKLV\_20240401

図4 SKLVのアクティビティの概略図

**SKLV EXPERIENCE** 南九州畜産獣医学拠点で体験と学びを 0円から ※見学のみ

**SKLV LUNCH** 南九州畜産獣医学拠点で 食す! 600円から ※うどん、そば単品価格 ※各種メニューあります!

**SKLV RIDING** 南九州畜産獣医学拠点で 乗りまくる! ※乗馬体験(引馬)お一人様の料金 ※各種メニューあります!

**SKLV BASE** 南九州畜産獣医学拠点を アクティビティの拠点としてご利用ください! ※一泊乗泊まり料金 ※詳細はHPをご覧ください。